

モニタリング項目 No.20（適正な利用・エコツーリズムの推進）の 実施結果について

1. 対象団体

エコツーリズム検討会議の構成員や提案事業に取り組む15団体を対象に、この資料の巻末に掲載した調査シートの内容について2025年度に関する聞き取り調査を行い、13団体から回答を得た。

No.	団体名	No.	団体名
1	環境省	9	知床小型観光船観光船協議会
2	林野庁	10	知床羅臼観光船協議会
3	斜里町役場	11	知床ウトロ海域環境保全協議会
4	羅臼町役場	12	斜里山岳会
5	知床斜里町観光協会	13	羅臼山岳会
6	知床羅臼町観光協会	14	知床財団
7	知床ガイド協議会	15	オホーツク総合振興局保健環境部 環境生活課 知床分室
8	知床羅臼ガイド協議会		

2. 結果

①「知床エコツーリズム戦略」の基本方針について

【基本原則】	該当
遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上に貢献している。	11 団体
世界の観光客への知床らしい良質な自然体験を提供している。	7 団体
持続可能な地域社会と経済の構築に役立っている。	9 団体

【エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点】	該当
事業、ツアーが、地域主体・自律的・持続可能である。	6 団体
事業、ツアーでは、共有・協働・連携などのネットワークが構築されている。	9 団体
自然環境の保全に配慮している。	12 団体
利用者の自然生態系に関する理解が促進されている。	7 団体
事業及びツアーが、地域の文化・歴史的背景を踏まえて実施されている。	8 団体
利用者へ自己責任の原則が認知され、管理責任の分担が行われている。	7 団体
事業、ツアーは知床のブランド価値を高めるという視点がある。	8 団体
事業、ツアーは順応的管理型で実施されている。	7 団体

【回答を辞退した団体のご意見】

- ・本年度は自団体によるツアー開催がなかったため。
- ・回答に手間がかかるため。

「知床エコツーリズム戦略」に則り、特に力を入れて取り組んでいることや、新たに始めた取組があるか
<p>■ 特に力を入れている取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イワウベツ川巡視 ヒグマとの適切な距離のためにも重要と考えている。 ・ 海からしか見ることのできない知床の自然を提供できる唯一のアクティビティであるため、引き続き価値を高め、広く利用していただけるよう尽力する（*観光船事業についての回答）。 ・ 知床サスティナブルフェスの実施と、これに連動した森の集い（植樹祭）やディスタンスキャンペーン等の関連イベントの実施。 ・ 世界遺産登録20周年を記念したシンポジウム、アドベンチャーフェス等の企画実施。 ・ 斜里町、羅臼町におけるヒグマ授業、タウンミーティング（クマ端会議）等の普及活動。 <p>■ 新たに始めた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知床インタープリテーション全体計画を踏まえた利活用 羅臼 VC の映像改修、YouTube用の動画撮影、ポケモンとの連携（清掃・公園冊子作製）。 ・ カムイワッカ湯の滝において、自然現象に由来するリスクが現認されている場所であることから、管理運営体制の構築等の試行事業を実施し、2025年度より本格運用へ移行した。運用にあたっては、試行事業の枠組みを基本とし、試行事業で明らかとなった課題や、取り組みが不十分であった点への対応を進めている。 ・ ヒグマ事故を受けた事故対応とその検証、リスク対策の枠組み提案。

②エコツーリズムに関わる利用者・参加者の数や意識、行動の状況について

利用者・参加者の数	
増加している	6 団体
減少している	3 団体
どちらともいえない	3 団体
未回答	1 団体

利用者・参加者の意識	
変化している	5 団体
変化していない	3 団体
わからない	4 団体
未回答	1 団体

利用者・参加者の数や意識、行動について、気付いた点や気になる点

■ 利用者・参加者数の変化

- ・ 観光船各社では、事前予約が減っている。
- ・ カムイワッカ湯の滝利用者数が前年比で約 900 人減少し、約 6,600 人の利用があった。湯の滝利用者、バス乗車人数の減については、羅臼岳登山道におけるヒグマ人身事故に加え、カムイワッカ湯の滝においてヒグマが長時間滞留したことや、悪天候の影響により、終日利用を中止せざるを得ない日が発生したことが主な要因と考えられる。
- ・ シャトルバス乗車人数について、1日あたり乗車人数を比較すると、前年比で約 110 人減少している（*カムイワッカ湯の滝利活用検討事業についての回答）。
- ・ 昨年度は、春節の影響で 1 月下旬から 2 月上旬にかけて中国国籍の人が多く見受けられた（*厳冬期の知床五湖エコツアーについての回答）。
- ・ 例年であれば、12 月までに次年夏山登山ツアーの予約の 3 割が確定するが、12 月までの予約は半減しており、問い合わせ自体も極端に少ない。
- ・ 羅臼地区のビジター施設の入り込み数は大幅に増加した。
- ・ ウトロ地区の施設等は横ばいまたは微増した。
- ・ 羅臼側、ウトロ側いずれも外国人は増加している印象だが、国籍は分散している印象。各施設のインフォメーションカウンターでは、アクティビティやツアー、交通（バス・タクシー等）の予約や手配に関する問い合わせや窓口対応の増加に伴い、現場負担が増大している。特に、ガイドツアー等のアクティビティの統一的な窓口がなく、外国語対応なども不十分な場合もあり、受け入れ態勢に課題を感じている。

■ 利用者・参加者数の意識・行動

- ・ 湯の滝利用者アンケート結果では利用者の満足度は高い状態で推移している。
- ・ 次年夏山登山ツアーの問い合わせが減った原因については、羅臼岳ヒグマ事故だけではなく、大雪山系でのヒグマ遭遇事例の増加や、雌阿寒岳の噴火の要素も含まれる。
- ・ 立入が認められていない箇所への侵入など、観光客の問題行動が増えた印象を受ける。
- ・ 当該ツアーは静寂性を売りにしているが、利用者はルールを守って参加していた（*厳冬期の知床五湖エコツアーについての回答）。
- ・ クマスプレーを持参する登山者が増えた。
- ・ 前日や当日の天候を利用者自身で判断する傾向へ変化していると感じている。安全・安心をもっと事前に PR し予約に結びつけていかなければならない課題がある。また、登山者とヒグマの事故も発生し知床に対するイメージが変わってしまうのではと危惧している（*観光船事業についての回答）。
- ・ ヒグマへの生態的知識がほぼ皆無な状態でのヒグマ見学目的の来訪者が増加した。
- ・ 逆走や、登坂・カーブ途中での停車等、運転マナーの低下を感じる機会が増えた。
- ・ 羅臼岳ヒグマ事故以降、クマスプレーの問い合わせが増加。バスツアー等の添乗員が持参する例も見受けられるが、使用方法やフィールドの実態が理解されているかは不明。

③事業、ツアーで使用しているフィールドや地域の自然環境について

気になることや心配なことがある	10 団体
気になることや心配なことはない	3 団体

■ ツアーで使用しているフィールドの自然環境について

- ・ 結果として8.14 羅臼岳ヒグマ事故となってしまったが、私自身も残雪期登山エリアや登山道で非常に近い距離でヒグマと遭遇が頻発した年だった。いわゆる問題個体が登山エリア内にいるのが常態化するようになったと考えている。外客登山者やヒグマ生息地域の登山経験・知識・理解の少ない登山者の増加が見られることから、登山フィールドでのヒグマ対策のシステムをブラッシュアップする必要がある。
- ・ 極端気象などにより登山道の荒廃が進んでいるが、この一年でも土砂の流下などが進行した。
- ・ 羅臼のビジターセンターから羅臼岳登山口の中の川の中に、昔温泉を引いていた時のビニールパイプが大量に破棄されたままになっている。
- ・ 今年の8月上旬、羅臼岳登山道で第一の壁手前の笹が全く刈られておらず、肩付近まで伸びていた。このため、足元も見えなく非常に危険な状態であった。
- ・ 知床連山縦走路の荒廃、枝払いなどがなされていない。
- ・ 硫黄山登山口付近の道道に地域への連絡がなく新たなゲートが設けられている。
- ・ 海岸のゴミを回収しているので少しずつではあるが、海岸のゴミが減少している。
- ・ 落石や気象条件などによるリスクをいかに低減していくか引き続き検討していく。
- ・ 海を利用するすべての人の安全基準をできる限り引き上げたい。よびもり（救助支援端末）などの活用は、万が一の事故に備え過酷な低水温海域での迅速な救助、および行方不明者を防止する大きなメリットがあると考え。地域全体で取組み「知床は海での緊急時に万全な体制でお待ちしています!!」とアピールしたい。
- ・ 羅臼岳ヒグマ事故により、ヒグマリスクが強く意識された1年であったと感じている。登山道は依然として閉鎖が続いており、今後の明確な見通しが未だにアナウンスされておらず、対応のスピード感に課題を感じる。
- ・ 登山道を辿る夏山登山だけでなく、山岳エリアは通年利用される実態を踏まえる必要がある。利用の実態から乖離した形式的、管理者都合の対策になることを懸念している。

■ その他地域一般の自然環境について

- ・ 地球温暖化の影響。
- ・ 流氷と鮭の減少。
- ・ エコツーリズム戦略の基本方針のとおり、遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上することが必要であり、過度な利用により自然環境を悪化させることのないよう利用の調整を図るべきである。
- ・ 国立公園内で主にカメラマンとヒグマとの接近は自然公園法改正後も依然として状況が改善されていないと感じる。

④その他（知床のエコツーリズムに対する意見、事業・ツアーを実施していて気づいた点）

■ 改善点の提案

- ・ ヒグマの住処にお邪魔する謙虚な意識などに代表される知床の基本的特徴が、改めて共有され、利活用されることに注力したい。
- ・ 海外客の増加により公共機関の移動者も増加傾向にあるが、交通のアクセスが悪すぎて困っているお客様が多見受けられる。これは地域の枠を超えた大きな問題であるため、できる限り広範囲に強く要望をしていただきたい。

- ・ エコツーリズム戦略の見直しについて、何年も協議を続けている印象。スピード感のある対応を望む。
- 羅臼岳ヒグマ事故による課題
 - ・ 羅臼岳ヒグマ事故以降、登山道が閉鎖され、どのような形で再開されるのか検討しているとのことだが2026年3月まで公表されないことで、利用希望者への情報提供ができずツアー募集ができないなど実損が生じている。

以上

知床のエコツーリズムを含む観光利用に関する聞き取り調査シート

知床世界自然遺産地域をより良い状態で維持するために、地域の関係者の皆さまを対象にエコツーリズムを含む観光利用に関する取組みをお伺いしています。いただいた回答は、貴重なデータとして知床世界自然遺産のモニタリングや関連する会議に活用され、将来にわたって知床の自然の恵みを持続的に利用していくことに役立ちます。回答者や個別の回答がそのまま公表されることはありません。

今回の調査では、2025年1月から12月までの1年間の状況でご回答ください。

団体名			
事業名			
事業内容			
記入日	令和 年 月 日	記入者	
		連絡先 TEL	

問い合わせ・連絡先

(受託事業者)

公益財団法人 知床財団

羅臼地区事業係 宮腰

TEL : 0153-87-2828 FAX : 0153-87-2876

Email: m_miyakoshi@shiretoko.or.jp

企画総務部 普及企画係 (斜里) 松田

TEL : 0152-24-2114 FAX : 0152-24-2115

Email: r_matsuda@shiretoko.or.jp

以下の質問は、貴団体の事業やツアーについて直近の1年間の状況についてお伺いするものです。貴団体が実施している事業や、催行しているツアーが該当すると思われる箇所の□にチェックの記入をお願い致します。

- ① 「知床エコツーリズム戦略」の基本方針に沿って事業を実施しているかお伺いします。

【基本原則】

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上に貢献している。
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験を提供している。
- 持続可能な地域社会と経済の構築に役立っている。

【エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点】

- 事業、ツアーが、地域主体・自律的・持続可能である。
- 事業、ツアーでは、共有・協働・連携などのネットワークが構築されている。
- 自然環境の保全に配慮している。
- 利用者の自然生態系に関する理解が促進されている。
- 事業及びツアーが、地域の文化・歴史的背景を踏まえて実施されている。
- 利用者へ自己責任の原則が認知され、管理責任の分担が行われている。
- 事業、ツアーは知床のブランド価値を高めるという視点がある。
- 事業、ツアーは順応的管理型で実施されている。

直近の1年間で、「知床エコツーリズム戦略」に則り、特に力を入れて取り組んでいることや、新たに始めた取り組みなどがあればご記入ください。

- ② 利用者・参加者の数や意識、行動の状況についてお伺いします。

直近の1年間で、貴団体の事業の対象者又はツアーの利用者・参加者の数は、

- 増加している 減少している どちらともいえない

直近の1年間で、貴団体の事業の対象者又はツアーの利用者・参加者の意識（特に、自然環境への配慮や世界自然遺産・知床についての知識があるかなど）は、

- 変化している 変化していない わからない

利用者・参加者の数や意識、行動について、気付いた点や気になることがあればご記入ください。

③ 直近の1年間で、事業、ツアーで使用しているフィールドと地域の自然環境について、何か気になることや心配なことはありますか。

ある ない

「ある」方は内容をご記入ください。

④ その他、知床のエコツーリズムに対するご意見など、事業・ツアーを実施してお気づきのことがあればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。